

代表作で「市に恩返し」

ゆかりの書家 故柿沼さん親族が寄贈



寄贈された柿沼さんの代表作2点 矢板市役所で

矢板市

矢板市を拠点に活躍した書家の故柿沼翠流すいりゅうさんの代表作を、市の文化発展のため柿沼さんの親族が市に寄贈した。二〇一〇年に書かれた「今 生きてますか」と「一笑」の二作品で、市役所や市生涯学習館で展示する。

柿沼さんは塩谷町出身。一九八三年に地域で書道研究グループ「書泉会」を立ち上げた。県書道連盟会長を務め、数多くの作品を残した。二〇一九年十二月、八十三歳で亡くなった。長男正さん（五五）らが「父の活動に対して市の多大な協力があった。少しでも恩返ししたい」と寄贈することに。

市役所であった贈呈式で、正さんは「生きるために（作品が）何か役に立てたらうれしい」とあいさつ。斎藤淳一郎市長は「先生の豪快な笑い声が聞こえるような作品。多くの人に見てほしい」と話した。

（小川直人）